

こどもが まんなか

# いわてのWAっこ



いわて幼児教育センター通信

№4 令和5年9月6日発行

発行・編集

岩手県教育委員会事務局学校教育室

(いわて幼児教育センター)

本通信は岩手県 HP からダウンロード  
できます

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html>



5歳児

心がそろろう  
音がそろろう

## きらきら☆いわてっこ

5歳児が夏祭り披露する太鼓に取り組んでいました。

掛け声も勇ましく、力強いばちさばきがとても見事でした。

コロナ前は、地域の方々が太鼓を伝授しに来てくださったそうです。コロナ禍になってからは保育者が動画を見ながら覚え、子どもたちに伝えてきました。

伝統文化の継承は、思うより簡単ではありません。

子どもたちと保育者が、地域の方々に支えられ守ってきた、絆と誇りが感じられました。

保育者が部屋のテーブルの上に段ボールを置き、新聞紙を筒状に丸めたものを籠に入れておきました。

そうです！新聞紙を筒状に丸めたものはばち（のつもり）です。ホールから太鼓の音が響いてくると、3歳児が次々に集まってきて太鼓の音に合わせて新聞紙のばちでテーブル太鼓をたたき始めました。楽しくて楽しくて仕方がないという表情です。

5歳児の凛々しい姿を想像しながら、自分たちもなりきって楽しんでいました。



3歳児

見て見て  
大きい組みたいでしょ！



日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。

子どもが、日常生活の中で我が国や地域社会における様々な文化や伝統に触れ、長い歴史の中で育んできた文化や伝統の豊かさに気付くことは大切なことである。(中略)地域の人々との関わりを通して自分たちの住む地域に親しみを感じたりすることが大切である。

<引用> 3要領・指針解説 領域「環境」内容(6)



# 遊びが育つクラス活動 道具編



子どもたちはハサミやのり、ステープラーなどの道具を必要に応じて使って遊んでいるでしょうか。家庭で使ったことのある子もいればない子もいて、案外個人差が大きいのが現状です。保育者が提案するクラス活動を通していろいろな道具や材料が使えるようになり、多様な表現力を身につけていくことはとても大切なことです。



発達に応じて、身につけたい技能はいろいろありますが、子どもの実態や興味・関心に沿うように時期やタイミングをとらえたクラス活動で、技能を身につけるきっかけを作っていきましょう。

ハサミはひとりひとりが安全に気を付けて使えるようにすることで、子ども自身が使いたい時に自由に使えるようにしていきたいものです。刃先を人に向けない、振り回さない、立ち歩きながら使わない、刃を閉じてケースにしまうなどを繰り返し伝え、適切に使えるようにしましょう。また、他の様々なものを切らないように（思いがけず髪の毛を切ったり服の裾を切ったりすることがあります）、紙を切る道具であることをしっかり伝えましょう。

※ハサミには左利き用、右利き用があり、適切に使わないとよく切れないので配慮が必要です。

### 幼児期の終わりまでに 育てほしい姿

(1)健康な心と体
(2)自立心
(3)協同性
(4)道徳性・規範意識の芽生え
(5)社会生活との関わり
(6)思考力の芽生え
(7)自然との関わり・生命尊重
(8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
(9)言葉による伝え合い
(10)豊かな感性と表現



今回のテーマは、主に (1)(2)(4)(6)(10)の育ちにつながっていきます。



### めざせ！保育の質アップ ワンポイントアドバイス

#### —運動会—

運動会、子ども主体の行事になっていますか？それぞれの発達に即した競技になっていますか？結果や出来栄え重視になっていませんか？

日常の保育の延長線上に位置づけたいと思っているのに、運動会前になると練習に追われ遊ぶ時間がなくなってしまふ。子どもたちが「おもしろいからもう一回やりたい」と言っても「次の競技の練習があるから終わり」と切ってしまう…何のため誰のための運動会なのでしょう。運動会を通して何を育てたいのでしょうか。一度立ち止まって考えてみませんか。

『子ども自身のアイディアを形にしていく子どもたちの姿』が見える運動会をめざしましょう。

目に見えにくい子どもの内面の育ちや、その取組の過程を大切にす姿勢をドキュメンテーションやポートフォリオで可視化することで、保護者の理解も深まり保育者自身の深い学びにもつながっていきます。